

— 災害は忘れた頃にやってくる —

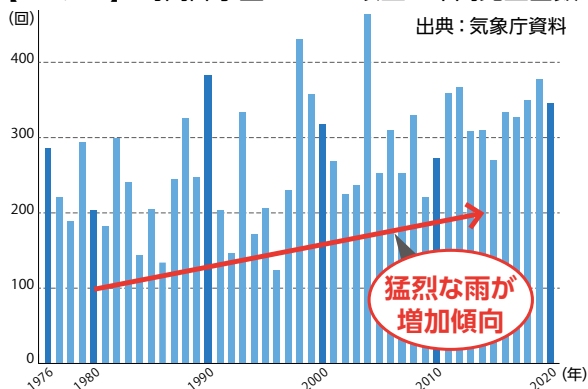
事前に備え、行動へ

自然災害から身を守るために最も大切なのは、一人ひとりが防災意識を高め、事前に備えておくことです。今回はこれからの台風シーズンに向けて、過去の本市の風水害や取るべき行動について紹介します。

日本の年平均気温は、100年あたり1.19℃の割合で上昇しています。また、1時間で80mm以上の猛烈な雨が降る回数も増加しています。地球温暖化の進行とともに、今後大雨や集中豪雨の発生はさらに増加すると予測されており、台風や豪雨による風水害・土砂災害発生リスクが高まっています。

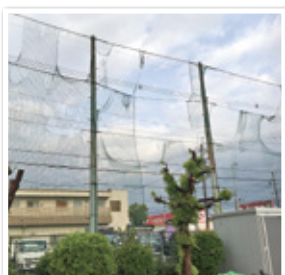
本市でも平成30年には「平成30年7月豪雨」と、「台風21号」で被害を受けており、災害発生リスクは決して人ごとではありません。当時の被害状況は次の通りです。

【アメダス】1時間降水量 80mm 以上の年間発生回数



▼時期 9月4日 上陸
▼風速 最大瞬間風速 39.8 m/s
▼雨量 池田で累計 56 mm (時間最大 45 mm)、伏尾台で累計 82 mm (時間最大 58 mm)
▼被害状況 3人負傷。その他、市内の4割以上が停電し、住家の半壊2棟、一部損壊357棟など

平成30年台風21号



▼時期 7月5日～8日
▼雨量 伏尾台で累計 475 mm (1日最大 277 mm、時間最大 40 mm)、池田で累計 399 mm (1日最大 215 mm、時間最大 30 mm)
▼被害状況 旧山の家斜面の亀裂、五月山の土砂崩れ、猪名川運動公園の冠水、人家の裏山の一部崩落など

平成30年7月豪雨



本市の主な風水害

レベル4
「避難指示」
で必ず避難

避難情報の伝え方が変わりました

国は、災害時にとるべき避難行動を住民に分かりやすく伝えるため、5段階で示した「警戒レベル」について見直しを行いました。

「避難勧告」と「避難指示(緊急)」の2種類あったレベル4が『避難指示』のみに一本化され、これにより、市が『避難指示』を出した時点で、全員が必ず危険な場所から避難しなければならなくなりました。また、その他のレベルについても一部名称が変わりました。

警戒レベル	状況	避難情報
5	災害発生	災害発生情報
4	発生の恐れ(避難時間確保困難)	避難指示(緊急)
	発生の恐れ(避難時間確保可能)	避難勧告
3	これから避難指示や勧告を出す可能性	避難準備・高齢者等避難開始



警戒レベル	避難情報
5	緊急安全確保
4	避難指示
3	高齢者等避難



「避難」とは「難」を「避ける」こと

さまざまな避難方法を考えよう

「避難所」に多くの方が密集すると、新型コロナウイルスの感染リスクが高まります。避難所でもスペースの確保や換気の徹底など感染予防に努めますが、「自分の命は自分で守る」意識のもと、自助による感染症対策にご協力をお願いします。

自宅にとどまる在宅避難

川の近くや低い土地、斜面といった危険な場所にはないマンションなど頑丈な建物で、上層階に住んでいる人は、自宅にとどまって避難生活する「在宅避難」も検討してください。ハザードマップで、次の3つにあてはまるか確認しましょう。

- ✓ 家の倒壊・流失の危険がないか
- ✓ 浸水などに耐えられる高所かどうか
- ✓ 水・食料など備蓄用品はあるか

電気・ガス・水道・トイレなどが使えなくなる場合も想定しましょう。



ハザードマップ

親戚・知人やホテルなどへの分散避難

災害リスクの少ない親戚や知人・友人の家など、普段から災害時に避難することを想定して相談しておきましょう。ホテルを検討する場合も、宿泊料などについて確認しましょう。



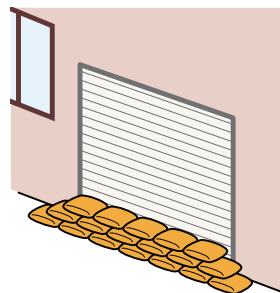
災害の種類によって、想定される危険や対応は変わります。それぞれの災害をイメージして、どのように行動すれば安全に対処できるか考えましょう。

③

室内の安全対策

- 転倒防止のため、家具は壁に固定する
- 寝室や子ども部屋には、できるだけ大きな家具を置かない
- 手の届くところに、懐中電灯やスリッパ、ホイッスルを常備
- 風水害対策として、ベランダや庭にある飛ばされやすいものは撤去するか固定する

- 浸水対策のため、必要に応じて土のうや止水板を用意。土のうステーションをご利用ください (16 ページ参照)



①

事前の心掛け

- ハザードマップを確認し、危険な場所を把握する



ハザードマップ

- 自宅の周りの危険を確認する
- 安否確認の方法やはぐれた場合の集合場所などを、日ごろから話し合っておく



緊急連絡先・災害伝言板

④

防災グッズを準備・確認

持ち出し品をリュックに入れて、非常時にすぐに持ち出せるようにしておきましょう。また、水道などライフラインが止まったときのため、最低3日分の食料・飲料・生活必需品を備蓄しましょう。

備蓄品は、普段の買い物で少し多めに購入し、使った分をまた買い足すローリングストックの実践で無理なく備蓄できます。



非常時持ち出し品チェックリスト



②

避難場所・経路を確認

避難場所・経路の確認と同時に、知人や友人宅への避難や、自宅やマンションなどの上層階への避難についても検討しましょう。



市ホームページ
あなたの避難場所



コロナ禍での市の備え

本市では、新型コロナウイルス感染症流行中の被災を想定した避難訓練を実施しています。

集団形成による密を回避するために、令和2年度にはプライベート空間を確保できるテントや感染症対策備品を防災倉庫に備蓄し、避難所のスムーズな対応に努めます。



ハザードマップを改訂します！

府では、本市にまたがる猪名川・箕面川・神田川・余野川について、浸水想定に使用する降雨量の基準を「概ね1000年に1度」の規模に見直しました。(詳細は市ホームページのハザードマップをご覧ください)。それに合わせて、本市のハザードマップも現在改訂中で、今年度中には各家庭へ配布予定です。

配布予定日など詳細は、決まり次第市ホームページおよび広報いけだで紹介します。



危機管理課
森 大然

問い合わせ
危機管理課 ☎754・6263

5

正しい情報収集

緊急時に役立つさまざまな情報をインターネットやテレビなどから収集し、実際の避難に役立てましょう。

ただし、災害時にはSNSなどで、情報が錯綜しデマや誤った情報が拡散されやすくなります。未確認の情報はむやみに拡散せず、できるだけ国や府・市から正しい情報を入手しましょう。



6

家族や大切な人と一緒に マイタイムラインを作ろう

マイタイムラインとは、災害時に自分自身や家族の取るべき行動について「いつ」「誰が」「何をするか」をあらかじめ時系列で整理した一人ひとりの防災計画です。

それぞれの大切な命を守るためには、皆さんの自助、共助の取り組みが必要不可欠です。身の回りに起こりうる危険に「気づき・備え・行動」できるよう「マイタイムライン」を作成しましょう。



市ホームページ
マイタイムライン

